

札幌市立西岡小学校の取組【読書：中央図書館活用授業】

1 研究のねらい

- 慣れ親しんでいる学校図書館の配架やきまりなどを基に、中央図書館を見学することで様々な相違点に気づき、図書館利用に関わる人々の思いや工夫を考える。
- 公共施設を利用するためのマナーや心構えを身に付ける。

2 取組内容

2 年生生活科「みんなでつかう まちのしせつ」

(1)【図書館に行こう】

まずは、学校図書館を訪ねた。1年生の頃から慣れ親しんでいる図書館だが、「どのような人が利用しているか」、「どのような工夫がなされているか」という観点をもって見学をすると、普段利用している際にはあまり意識していない配架のきまりが明らかになってくる。子どもには「他にも工夫があるかもしれない」という思いが生まれ、図書館について詳しい学校図書館開放司書にインタビューすることとなった。

今回、図書館利用に関する紙芝居や絵本も活用した。分かりやすい絵が入っていることで楽しみながら図書館の役割や分類などについて学ぶことができた。

(2)【図書館のことを聞いてみよう】

インタビューするために、質問の仕方の練習を行った。自分たちが求める情報を的確に得られるよう準備を進めた。

学校図書館開放司書には、図書館を気持ちよく利用してもらうための工夫や貸出・返却のきまりなどについて説明していただいた。子どもにとっては初めて知ったことや気が付いていなかったことも多くあったようで、改めて図書館を見回り、確かめている様子があった。



(3)【行ってみよう つかってみよう】(中央図書館)

「学校図書館のきまりは、他の図書館でも同じなのかな。」

子どもたちは、中央図書館に見学できる機会があることで、調べ活動への意欲を高めていた。中央図書館でも司書の方にインタビューをしたり、館内を見学したりできることを知り、準備や計画を進めていった。

①中央図書館司書へのインタビュー活動

中央図書館では、学校での経験を生かして、司書の方にインタビューを行った。「どのくらい本があるのですか。」

「人気のあるのは、どんな本ですか。」「本の貸出以外にどんな仕事がありますか。」「秘密の部屋はありますか。」

蔵書数や1日の来館人数、目の不自由の方への対応など、学校図書館との違いに驚きの声が上がった。特に、配架していない本を保管してい



る場所があり、後に見学できるという説明には、期待感を表していた。

②施設見学

インタビュー活動後、三つのチームに分かれてグループによる施設見学を行った。

チームA…蔵書保管場所見学

チームB…1階図書室見学

チームC…「こどもの森」の本の閲覧

活動（約10分）

を順に入れ替えて



チームAは、図書室に配架されていない本の保管場所の見学から行った。可動式の書庫に多くの本が並べられている様子には、圧倒されていた。また、破損した本を修復する作業場にも行き、大切に管理する職員の方々の努力を感じる機会となった。

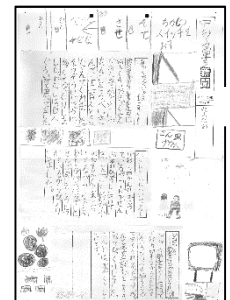
チームBは、案内を受けながら図書室の見学から行った。広い室内を巡りながら学校図書館と同じ分類で配架されていることを確かめた。点字図書や拡大機の説明も受け、より多くの人が利用できる準備を整えていることに気付いた。



チームCは、「こどもの森」の本を閲覧することから始めた。同じテーマでも何種類もの本があり、友達と比べながら楽しんだ。

③中央図書館の「ひみつ」を集めた新聞づくり

見学を終えた子どもは、学校に戻って新聞作りを行った。調べた内容に驚いたことなどの感想を加えて記事を書き、余白に中央図書館の様子を絵で描き加えながら仕上げた。どの作品にも有意義に学習した過程が表した。



3 成果と課題

(1) 成果

- 「学校図書館→中央図書館→学校図書館」という学習の場を構成したのは効果的だった。比較する観点をもって中央図書館で見学ができたことで、それぞれの図書館のよさや司書の方の利用者への配慮などに気付いた。
- 中央図書館見学を通して、公共施設利用での留意点を学ぶ機会となった。2学期後半に生活科で校区内の施設・店舗でのインタビュー・見学活動を計画していたので、緊張感をもち、場に応じた言動を選択する必要性を感じられたことは、価値があった。

(2) 課題

- 中央図書館の施設や関わる人々について調べ学習をすることを重点としたが、子どもが本と触れ合う・楽しむ時間を十分に確保することはできなかった。学んだ配架のきまりを生かして、興味・関心のある本を探し楽しむ時間の確保も必要と考える。